

【マウスにおける急性吸入毒性試験(全身暴露) 結果のご報告】

弊社では、イージスアクア(200 ppm)をイージスミスト（噴霧器）によって噴霧をした場合、マウスに急性吸入毒性がみられるのかを、専門試験機関である「薬物安全試験センター」に依頼しておりました。結果は、急性吸入毒性は”認められなかった”となり、弊社では試験において安全性が確認出来たと判断いたします。

試験機関：薬物安全試験センター

実施期間：2020年8月4日～9月2日

試験試料：イージスアクア（AEGIS AQUA）200ppm

※通常は希釈してご使用頂いておりますが、より厳しい条件で行うため。

試験概要：マウスにおける急性吸入毒性試験(全身暴露)：山下法

Study No. N20165

試験報告書

試験番号：N20165

表題：イージスアクア（AEGIS AQUA）のマウスにおける急性吸入毒性試験
(全身暴露)

2020年10月22日

試験施設の名称および所在地
株式会社 薬物安全試験センター・吉見研究所
〒355-0166 埼玉県比企郡吉見町黒岩 25-1

Study No. N20165

I. 要 約

イージスアクア（AEGIS AQUA）の急性吸入毒性について検討した。
試験動物として ICR 系マウス雌雄各 5 匹の合計 10 匹を試験に供した。
試験方法は全身暴露とし、山下らの方法を参考に 0.5 m³ (H120×D60×W70 cm) の実験槽を用いて行った。マウスは、実験槽のほぼ中央に設置した金網製ケージに雌雄別に収容した。
被験物質の原液（200 ppm）を投与試料とし、暴露は、委託者より提供された超音波霧化器（イージスミスト）を用いて、連続モード（モード 0）にて 7 時間の連続暴露を 1 回行った。
暴露開始から暴露 14 日後まで一般状態の観察を行い、その間に体重ならびに摂餌量を測定した。
その結果、死亡例はみられず、一般状態においても異常はみられなかった。体重は、雌雄ともに概ね順調な増加推移を示した。平均摂餌量は正常と考えられた。剖検および肺の病理組織学的検査においても変化はみられなかった。

以上の結果より、本試験条件下において、本被験物質に急性吸入毒性は認められなかった。



2020年11月4日
株式会社タカデン
<http://除菌.jp/>